えほんだより

みるみる１１月号

令和３年１１月26日（金）

平田村立ひらたこども園

木枯らしが吹く季節となりました。クルクルと舞う落ち葉を追いかけて歓声をあげるお友達…。保育者が「寒くない？」と尋ねると、「全然！私のおてて触ってみて！あったかいでしょ？」と差し出してくれる小さな手を握るとホカホカ。お友達の温かさに保育者も癒される日々です。

生活発表会に向けて練習を頑張っているお友達ですが、午睡の前には絵本タイムでホッと一息する時間を楽しみ、眠りにつく…。そんな毎日を送るお友達です。

１１月３０日（火）は、**「絵本の日」**です。意外と知られていない**「絵本の日」**。1986年11月30日に、瀬田貞二さんが著した『絵本論』（福音館書店）が発行されたことを記念して、民間図書館：絵本と図鑑の親子ライブラリーが制定し、日本記念日協会によって2012年に認定されました。瀬田貞二さんは皆さんがよく知る「ロード・オブ・ザ・リング」の翻訳者としても知られています。瀬田さんはこの記念日のきっかけとなった『絵本論』でこう述べています。**“絵本は、小さい子ども達にとって、手にとれる生き生きとした冒険の世界です”**と…。絵本は「良いもの」ということは誰しも理解するところですが、なぜ良いとされているのか…。瀬田さんのような先達の方々が「絵本」というものとは何なのかを真剣に考えてくれたおかげで、語り継がれていく「名作」だけでなく、新しい絵本への関心を深めるきっかけをくれるのかもしれませんね。

瀬田さんの『絵本論』の中から、皆さんへお届けしたい言葉があります。

“子どもを静かなところにさそいこんで、ゆっくり深々と、楽しくおもしろく美しく、いくどでも聞きたくなるようなすばらしい語り手を、私たちは「絵本」とよびましょう。”

この言葉を心に留めて、絵本の読み聞かせをしていきたいですね。



小さいお友達の「絵本大好き！」風景

小さいお友達（０・１・２歳）も絵本を見るのが大好き！音が出たり飛び出したりする仕掛け絵本は、お友達にとってまさに「冒険の世界」。ワクワクがとまりません！さあ、冒険の世界へ出発！



ひらたこども園を紹介しました！

去る１１月１日（月）に東京大学大学院発達保育実践政策学センター（Ｃｅｄｅｐ）とポプラ社の共同研究プロジェクトによる「図書館総合展」（オンライン）にて、ひらたこども園の読書活動について紹介する機会をいただきました。このプロジェクトでは、「こどもの読書環境を育むためにできること」をテーマに東大大学院、川村学園女子大学の先生方や学習院大学の秋田喜代美先生が読書環境についての研究を深められ、その成果について発表されました。

その発表の中で、ひらたこども園では、園内の読書環境が子ども達にどういった効果をもたらしているのか、お家の皆さんと「家読」を推進していく中で共有している思いや情報などについてお話しさせていただきました。多くの視聴者や読書に関わる専門家の皆さまがひらたこども園に関心を持ってくださったことが大変ありがたく、改めて保護者の皆さんと共に「絵本からの学び」を共有していきたいと感じました。







このセッションの中で秋田喜代美先生はこうおっしゃいました。「図書館や学校、園、保護者といった単独で機能している環境のみならず、そういった機関が横串で繋がることで本の喜びを分かち合えるプラットホーム（舞台や土台）が必要ではないか。過去から未来の子ども達の在り方を、時間と共にどう支えていくかということを考えた時に、そこには大人が真に関わることや一人一人が自分事として考えていくことが大切」と。また、園でも推進している「家読」という読書運動に関しては、「『親子で家読を楽しんでいる時の写真を園に飾る』『家読の日などを決め、少し心を引き締めてやってみる』『家読を楽しむ人達が繋がって楽しさを共有していく』など、家読についての足跡を残していくことが大切」とおっしゃっていました。絵本大好きノートや教育委員会作成の「子ども達に贈る本リスト」などもその「足跡」のひとつかもしれませんが、園でも今後の活動として、様々な足跡を残していけるような取組を行っていけたらと思います。

